

# 血液内科

## 【血液内科の概要】

横浜労災病院の血液内科は、1991年の開院時には内科の1グループとして発足し、さらに2000年5月より院内標榜科の一つとなった。一貫して血液臓器疾患の全てについて、最新のエビデンスに基づき治療を行うようにしている。同種造血幹細胞移植およびCAR-T療法については近隣の施設に紹介している。

## 【研修指導者】

血液内科のスタッフは、

血液内科部長・臨床検査科部長	山崎 悦子
輸血部部長	佐藤 忠嗣
副院長	平澤 晃

の3名で、研修医、専修医と共に診療にあたっている。佐藤部長は主に外来診療とカンファレンスでの指導にあたり、山崎、平澤が研修医の指導にあたる。

## 【血液内科の週間スケジュール】

- (1) 毎朝（水曜日を除く）8時半に7階北病棟勤務室で、前日の出来事や当日の予定について、簡単な打ち合わせを行う。
- (2) 血液内科カンファレンスは、毎週火曜日、午後4:00より7階病棟カンファレンス室で行う。入院患者さんすべてについて、1週間の出来事などを提示し、以後の治療について討論する。なお、同時に他の主治医の患者さんの状況についても理解を深める。
- (3) 全員回診が毎週水曜日、午前9:00より行われる。
- (4) 内科カンファレンスが第4木曜日に9階研修室で行われる。このカンファレンスでは、興味深い患者さん、疾患を主治医が提示し、皆で討論する。また、この時を利用して、種々の連絡事項がある。
- (5) 毎月第1、第3火曜日、午後6:00より管理棟3階講義室で研修医向けセミナーが開催されるので参加する。また、適時、CPCが開催されるので参加すること。

## 【血液内科での研修内容】

### 1 一般目標

基本的な知識・技能を持った、プライマリーケアを行うことができる臨床医となるために、血液造血器疾患の診断と治療を通じて、全人的医療と、内科診断学、治療を修得する。

### 2 行動目標

- (1) 患者さんやその家族と、よい信頼関係を保てるような診療ができる。
- (2) 正常造血機構、腫瘍の発生、止血凝固機構について述べるができる。

- (3) 患者さん及び家族より、正しい病歴を聴取し、記録にまとめることができる。
- (4) 正しい理学的所見をとり、診療録にまとめることができる。
- (5) 以下の検査について、適応を考慮して実施でき、またその主要所見を述べることができる。
- ・血算、血液像、血液生化学、血清、血液凝固、尿などの検体検査
  - ・血液型検査
  - ・一般X線検査
  - ・超音波検査
  - ・CT, MRI 検査
  - ・内視鏡検査
  - ・核医学検査
  - ・各種培養検査
- (6) 以下の血液学的検査法を理解し、主要な所見を指摘できる。
- ・骨髓穿刺、骨髓像
  - ・血球の細胞科学（ペルオキシダーゼ、アルカリフォスファターゼ、エステラーゼ染色等）
- (7) 鉄欠乏性貧血の原因を追究し、治療できる。
- (8) 急性白血病、悪性リンパ腫の化学療法の概略を述べることができる。
- (9) 慢性骨髄性白血病の治療の概略を述べることができる。
- (10) 造血細胞移植の適応について述べることができる。
- (11) 汎血球減少の原因を追究できる。
- (12) 血小板減少症の原因を追究できる。
- (13) 好中球減少時の感染の治療ができる。
- (14) Mタンパク血症の精査ができる。
- (15) 輸血の適応、方法、副作用について述べることができ、確実に実施できる。
- (16) 栄養管理、輸液管理ができる。
- (17) 悪性腫瘍に対する医学的、社会的、心理的ケアの必要性を認識する。
- (18) EBMに基づいた治療法を、自己で調べ評価できる。
- (19) 血液内科カンファレンスに積極的に参加し、他の担当医の患者さんについての理解を深める。

#### 【研修方法】

- 1 主治医である指導医とともに担当医として患者を受け持ち、その診断、治療にあたる。指導医には、適時相談をし、指導を受ける。
- 2 担当患者数には限りがあるので、血液内科のカンファレンスを通じて（積極的に議論

に参加し)、他の疾患の診断、治療について学ぶ。

- 3 血液内科としての特殊検査である骨髄検査については、指導医の指導下で実際に行い、手技を修得する。また、指導医と共に鏡検し、骨髄検査所見について理解を深める。

#### 【研修の評価】

指導医が、研修目標に達していたか否かについて、研修修了時に評価する。なお、一部については、病棟看護師、看護師長の意見も参考にする。